

目指す学校像	学びを実感できる学校 安心で安全な学校 信頼され、地域の誇りとなる学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 個別最適な学びの実現と思考力、判断力、表現力の育成につなげるための授業改善とスキルの向上 2 安心で安全な教育の推進と配慮の必要な児童への教育支援・相談体制・さくらんルームの充実 3 コミュニティスクールによる学校・地域・家庭との一層の連携 4 研修受講奨励を柱とした教職員研修の充実と管理職の教室訪問による授業力の向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○昨年度全国学力・学習状況調査においては、国語、算数ともに、全国平均と比べて+5Pと概ね良好な結果であり、市の学習状況調査においても国、算ともに平均に達している。 ○市の学力調査において、自尊意識の質問項目で市の平均より1~2P程度低く、否定的な回答も+5~6Pであった。 ○児童の授業への参加態度はどの学年においても比較的良好で落ち着いており、真面目に取り組む児童が多い。 <課題> ○日頃の授業において既習事項をもとにした「自分の思いや考えを表現する力」の不足や自己肯定感がやや低い傾向が見られる。 ○本校の体育科においてより効果的なICT機器の活用と非認知能力の向上のための指導法や共通理解を進める必要がある。	・個別最適な学びの実現に向けた授業改善 ・思考力、判断力、表現力の育成のためのICT機器の効果的な活用	①自ら考え、思考し、やってみて、クラウドを活用して伝え合う授業形態「じ・し・ゃ・く」を合言葉に授業に取り組み、主に国語、算数の授業を進めるにあたって、個別最適な学びの実現にむけて取り組んでいく。 ①教育委員会からの指導者を招聘し、本校の学校課題研修で取り組むべき方向性と基本的な手立てを学校全体で共有し、全職員で推進していく。 ②研修主任、エバンジェリストと定期的に連携を図りながらICT機器活用の研修会を開催する。思考力・判断力・表現力の育成のための効果的なICT機器の活用方法を試行錯誤しながら教材研究を深め、取り組んでいく。非認知能力の向上について研修を進める。	①新たな「学びの指標」の主体的な学びの項目が3.3P以上、又はよい授業のアンケート「因子4」の児童の活動の項目が全学級目標値+1P以内になっているか。 ①年度末の校内研修の振り返りで、研修課題の解決に向けて取り組んだ手立てが効果的であったという評価が職員の8割に到達しているか。 ②体育科の授業を中心に、思考力・判断力・表現力育成を目指し、ICT機器を活用した「スポーツを科学する」をテーマに動作解析アプリ「プレボス」を活用して授業改善に取り組めたか。また、授業の振り返り活動を通して非認知能力の向上が見られたか。						
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の設問に肯定的な回答は全国・県平均とほぼ同じ割合であり、市の学習調査でも+1~2Pであった。 ○泰平山が老朽化して地面からジャリ等が露出し始めている。施設・遊具で老朽化が進んでいるものが見受けられる。 <課題> ○特に低学年の通常学級に在籍する児童で配慮を要する児童の状況を学校全体で把握し、組織的に支援していく体制を構築していく必要がある ○担当の教職員が施設設備の安全点検を実施するだけでなく、複数の目で確認する体制作りが課題である。	・児童一人ひとりの実態に適した教育支援・教育相談体制、及びさくらんルームの充実 ・安心・安全な生活の実現のための安全点検の整備と新しい体制作り	①配慮を要する児童の個に応じた指導の実現のために、専門機関、関係機関と連携を図り、保護者との信頼関係のパイプをより強化する。また、さくらんルームの活用について保護者面談等を通して体制作りの充実を図る。 ②生徒指導、教育相談の事案において随時ケース会議を開催し、組織的に対応し、「迅速、誠実、アフターケア」を基本に対応することを徹底する。	①教育委員会学校施設管理課と連携を図りながら定期的な施設整備・校庭の遊具の整備を行う。複数の目で行う校舎内外の安全点検の体制作り。新設された放課後児童クラブとの施設使用に関する情報交換会を開催する。 ①学校評価アンケートの施設・設備の項目で肯定的な評価が9割に達したか。 ②新設された放課後児童クラブとの施設使用に係る安全管理の情報交換が学期ごとに行われたか。						
3	<現状> ○地域の児童センター、福祉協議会、デイサービスセンターなど学校と地域の施設との関わりが深く協力的である。学校支援のボランティア、PTAからの支援も得ながら学校としての協働活動が実施されている。 <課題> ○今年度は、学校運営協議会のメンバーも入れ替わり、年度末に話しあったデイサービスセンターとの交流をメインにした豊かな心を育む活動について、見通しをもった活動プランを全体で共有する必要がある。	・地域、保護者との連携・協力による教科・行事支援ボランティア活動の拡充 ・本校施設内にあるデイサービスセンターとの定期的な交流の推進	①地域や保護者から学校支援に関わる人材を確保し、教科支援、行事支援、図書ボランティア活動等に関わる場を増やしていく。便り、HP等で取組状況を発信していき、協働体制を深めていく。 ①学校運営協議会において、学校・家庭・地域での課題について熟議し、共有する。また、連携・協働体制を整え、学校支援体制の充実とさくらんルーム活用体制の構築、デイサービスセンターとの交流等につなげていく。	①学校評価のアンケートで、教育活動の公開や協力体制の項目で肯定的な意見が昨年度の85%を超えたか。 ①学校評価のアンケートで、保護者地域PTAの協力ができているかの項目で肯定的な意見が9割を超えたか。						
4	<現状> ○エバンジェリストが中心となりICT機器の効果的な活用と実践事例が積み重なっており、授業や会議においても効果的に活用されている。 <課題> ○学校課題研究への取組において新しいICT機器の活用法を研究したり、教材研究を深めたりしてお互いが切磋琢磨して教師力の向上につながる環境作りが課題である。 ○新たな研修受講に向けて意識の向上と取組について学校全体で情報共有をしてことが課題である	・学校課題研究の解決に向けたICT機器活用や若手教員の指導力向上研修も含めた、学び合いのできる研修体制作り	①実習生への師範授業、公開授業、年次研修授業、学校課題研修の研究授業等、年間を通して一人1回はICT機器を活用した授業研究に取り組み、お互いに授業を見合う中でそれぞれの授業力の向上を目指す。 ②学校課題研修及び指導力向上研修や校長による計画的な教室訪問の指導・助言による授業力の向上に取り組む。 ③職員それぞれが自己研修を設定し、プランニングをしていく。	①全ての研究授業で、協議会かそれに代わる機会を設定し、お互いの授業改善とICT機器の技能スキルの向上が図れたか。 ②全ての教員が自らの自己評価シートの目標達成のために取り組み、主体的で対話的な深い学びのための授業改善ができたという職員が8割を超えたか。 ③年度当初に計画した自己研修について実践し、学びを深めることができた職員が8割を超えたか。						